



旭川市が実施している「私の未来プロジェクト事業」の一環として、「命の誕生」について学ぶ授業を行いました。保健師さんや助産師さんを講師とし、新生児人形に触れたり、産道トンネルを通ったりする体験を通して、命の尊さに気づくことができました。

(旭川市立神楽岡小学校)

No. 122 (平成 28 年 3 月 1 日)

おもな内容

ページ

随想	1
研修講座・出前講座寸描	2～4
研究の成果と課題、研究員の実践	5～6
研究協力校の実践	6～7
平成28年度研修講座開催一覧	8
平成28年度の講座開設の工夫	9
お知らせ	9～10

随想

なんでも学校教育が

請け負うのか

中川町教育委員会

教育長 山内 茂

時代が変わった、社会構造が変わったという何がどう変わったのかを日常生活において考えてみました。

二十世紀後半の成長社会から二十一世紀の成熟社会に入り、今や会話不能の時代になっているということです。成長社会では、皆が同じ希望を持ち、共に行動もした時代であります。が、成熟社会になると各々の家族のそれぞれが行動する時代になり、父はテレビ観戦、母は別のテレビで教育番組、子どもはパソコンでサッカー、もう一人の子どもは携帯でゲームを楽しんで過ごしている。また、家族の食事も個々の好みと食事時間により、コンビ二弁当や好きな時にバラバラに食べるという「人それぞれの文化」の流れの中で保護者も子どもも日常生活を送っていることが多くなっているということです。

私は、この現状に思いを巡らすと学校教育だけで、子どもに何を教えることができるのだろうかと気掛かりです。子どもが「みんないっしょに」の学校文化圏と「それぞれが」の家庭文化圏の狭間を行き来しながらもこの現状を理解し、人間形成にうまく繋がってほしいと願うものです。

平成二十五年度教育に関する保護者の

意識調査書（日本PTA全国協議会）の中で、「あなたは子どもにどのような力をつけさせたいですか」の設問に対して、「子どもには、自らを律する心が育って欲しい」との回答がほとんどでした。つまり保護者は、未来を生きる子どもには「生きる力」を培って欲しい、それを支える「自律心」が育って欲しいと願っているのだと思います。考えの一つとして、家庭は教育の原点であり出発点でもあります。基本的な生活習慣、豊かな心、思いやり、倫理、マナーなどは、家庭内での心と心のふれあいから身につけていくことが望ましい姿なのではないでしょうか。教育基本法に「父母その他の保護者は、子どもの教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身につけさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。」とありますが、現今はこの取組が弱くなってきたるように思います。学校には子どもがいるので、その取組を学校教育にすべて請け負ってもらいましょうというのではなく、人に関わる機関が「大人も子どもも健全な人になるう」と呼びかけをしていくことがオール北海道で目指す子ども健全育成だろうと思うところです。

本校では防災教育の一環として、警察・消防・役場・委員会等関係機関と連携しながら「避難所受入訓練」を行っています。これは、避難所の一つとして指定されている本校に、地域の皆様方が避難してきた時を想定して、受付や体育館への誘導など受入対応を、実際に訓練として行っているものです。避難後は、生徒が準備したおにぎりと備蓄されている非常食の試食体験、避難所生活におけるストレス対処法の学習など、大変有意義な時間となりました。

(中川町立中川中学校)



センター日誌

11月11日	研修事業拡大会議
12月8日	冬季拡大研究会
12月17日	センター運営協議会
12月25日	1月8日
1月5日	研究室冬季集中研
1月26日	冬季合同所員研修会
2月4日	センター組合教育委員会会議
2月12日	センター研究発表会
3月1日	センター組合議会定例会
3月31日	センターだより第122号発行
4月1日	平成27年度研究紀要第41号発行
	平成28年度研修講座開催要項発行

29 国際理解教育 10/13

真坂 和義 (旭川第一小 教頭)
山口 貴大 (美瑛東小 教諭)
木村 伸一 (朝日小 教諭)

Ⅱ 講師 Ⅱ



(旭川市立神楽中学校 瀧 繁之)

午前中は、国際理解教育のねらいや現状について丁寧に説明していただきました。午後からは、日本文化のよさを広げたり深めたりできる、すばらしい授業を見せていただきました。大変有意義な一日になりました。ありがとうございました。

研修講座寸描

講座の様子から



(富良野市立布部小学校 金子健太郎)

今回の研修は、歌唱や合唱での音楽づくりの指導法について、とても勉強になりました。やはり、他校の先生方の取組や実践を生で見せていただけた機会というのはとても有意義な時間なので、今後ともぜひ参加させていただきたいです。

30 音楽科実技 10/14

杉江 光 (北海道教育大学 旭川校 教授)
鈴木由美子 (愛宕小 教諭)
横山 淳子 (大町小 教諭)

Ⅱ 講師 Ⅱ

今回の研修は、歌唱や合唱での音

31 保健安全指導 10/15

岸本 窪田

希 (神楽中 養護教諭)
泉 (神楽小 教諭)

Ⅱ 講師 Ⅱ



食物アレルギーの原因や症状、アナフィラキシーショック時のエピソードの使い方等、幅広い内容で充実した研修となりました。食物アレルギーに関する児童への保健指導や保護者との密な連携、学校全体での体制づくりが重要であることを学びました。

(幌加内町立朱鞠内小学校 鷹木 優希)

18 生活科・総合的な学習の時間 8/5・10/15

鈴木 康弘 (豊岡小 教頭)
元島由香利 (陵雲小 教諭)
小川 雄平 (東光小 教諭)
山邊慎太郎 (東陽中 教諭)

Ⅱ 講師 Ⅱ

(旭川市立末広北小学校 佐藤亜由美)

生活科・総合的な学習の時間において地域と関わる単元の構築が重要であることを感じました。地域素材や人材の発掘とその有効な活用方法など、研究協議でも意見交流が活発に行われ、大変有意義な研修講座でした。



28 学校・家庭・地域の連携(社会教育) 10/8

諏訪 清隆
 石田 貴宏
 三野宮 誠一
 管野 航

日本赤十字社旭川赤十字病院
 小児科部長 医学博士
 上川教育局教育支援課
 社会教育指導班 主査
 (中川町立中央小 教頭)
 上富良野町教育委員会
 教育振興課社会教育班 主事

講師



有害情報やいじめ等から子どもたちを守るには、家庭・学校・地域が連携し、一丸となって対応しなければならぬと痛感しました。このような機会をくださった講師の皆様、研修センターの皆様、そして参加者の皆様、ありがとうございました。

(旭川市立旭川第五小学校 近石 寛)



34 書に親しもう 1/6

講師
 小嶋 康博(愛宕中 校長)

新年の幕開けにふさわしい静謐さの中での講座でした。小嶋校長先生の「子どもたちがこういう明るい気持ちで書に向かえるようにすることが大切」という言葉を、受講者全員で実感できたと思います。ぜひ教室で実践していきたいと思います。

(旭川市立中央中学校 成田麻友子)

35 絵に親しもう 1/6

講師
 山岸 和子(広陵中 教諭)



講師の山岸先生から手順や留意点を丁寧に教えていただき、花や風景、持参した写真等の図案で切り絵を楽しみました。細かく難しい部分もありましたが、完成品を色画用紙の台紙に置くと雰囲気も変わり、趣深い作品に仕上がりました。

(旭川市立江丹別中学校 對馬 真弓)

青雲小学校「小学校外国語活動」12/16



講師：清水 忠明(白章小 教諭)
 外国語活動は、英語を通してコミュニケーションする力を高めることが大切だと確認できました。音声や表現に慣れ親しませながら、友のよさを認め、より良い人間関係をつくるのが授業の充実につながることをわかりました。

(旭川市立青雲小学校 相木 千明)

和寒小学校「音楽科実技」10/15



講師：南山 夕子(嵐山小 教頭)
 本校で取り組んでいる全校合唱の曲をもとにしながら、授業に近い形で御指導いただき、児童の目線で学ぶことができました。児童の歌いたい気持ちを高め、スモールステップで指導していく大切さを実感できる講座でした。

(和寒町立和寒小学校 福井 宏佳)

出前講座



学力向上に関する取組、学習評価の意義等、日々の教育活動に役立つ大変有意義なものでした。特に、指導目標を明確にし、目標を実現した生徒の姿を具体的にイメージする大切さを学びました。貴重な御指導ありがとうございました。
(美深町立仁宇布中学校 津田 庸介)

32 ミニ道研A 10/29

講師Ⅱ

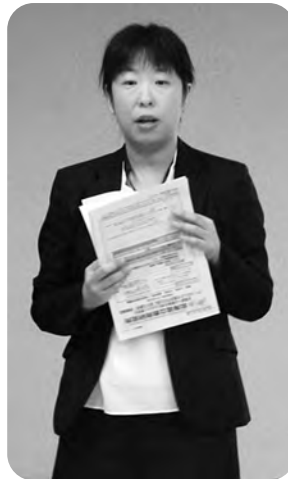
瀧沼 史朗 北海道立教育研究所
企画・研修部 研究研修主事
小林 成人 北海道立教育研究所
企画・研修部 研究研修主事



33 ミニ道研B 10/30

講師Ⅱ

土屋 靖雅 北海道立教育研究所
研究・相談部 主査
黒宮 茂樹 北海道立教育研究所
研究・相談部 研究研修主事
西道 希 北海道立教育研究所
研究・相談部 研究研修主事



キャリア教育をスパン的に計画すること、いじめの対応方法など、今後の学校生活に役立つ大変有意義な内容でした。また、アサーショントレーニングを通して、ほめることと叱ることの大切さを改めて学びました。ありがとうございました。
(名寄市立名寄中学校 西森 心哉)

上川教育研修センターでは、理論研究と実践検証を行った結果、2年次は、次のような成果と課題を明らかにすることができた。

成果

- ① 3段階の言語活動を意図的・計画的に位置付け、児童生徒に何を考えさせるのかを明確にしたことで、教師がどんな手立てを打てばよいのかをはっきりさせてから授業を行うことができた。
- ② 目標と課題・まとめを整合させ、発問・板書・学習形態といった教師の手立てを工夫し、児童生徒の思考力・判断力・表現力を育み、確かな学力を育成していく授業を行うことができた。
- ③ 思考力・判断力・表現力の評価の在り方について方向性を見いだし実践を重ねることができた。

課題

- ① 3段階の言語活動の中で、より主体的で質の高い集団思考をさせるための教師の手立てを、さらに明確にしていく必要がある。
- ② 学習評価の工夫として、自己評価の在り方についてさらに深めていく必要がある。

詳細は、3月発刊の研究紀要第41号をご覧ください。

研究室だより

今、研究室では

第一六次研究 二年次

研究主題「学び合いで確かな学力を育てる学習指導の在り方」
（思考力・判断力・表現力を育む指導と評価）

研究員の 実践

「思考ツールを用いて」

思考の明確化を図る授業の工夫

東神楽町立東神楽小学校四年 社会科

「災害の防止に努める関係機関の働きと」

自分の生活とのつながりを考える学習

授業者 小田島 充彦

一 本時の目標

本時の目標を「安全を守るための関係機関の働きや地域の人々の工夫や努力を地域の人々の生活と関連付けて考え、適切に表現することが出来る。」と設定し、思考ツールやゲストティーチャーなどを活用しながら既習事項と提示された資料との関連を意識させ、解決に当たらせた。

二 思考の明確化に関わる教師の手立て

① 個人思考「思考を促す「発問の工夫」」

導入でベン図を示し、消防署と消防団の違いに着目させた。その後、消防団の仕事が必要な理由を考えるよう指示した。何を考えるか明確にさせたことで、全員が考えを書くことができた。

② 集団思考「思考を促す「学習形態の工夫」」

個人思考で考えたことを基に、一番大切な仕事は何かをペアで考えさせた。ここでも思考ツールを用いたが、考えの根拠が薄かったため、新たな資料を提示する等の工夫が必要であった。

③ 思考のまとめ「思考を促す「発問の工夫」」

消防署と消防団が地域のために支え合っている理由を、ゲストティーチャーの発言を基に考えさせた。災害の防止のために公的機関と地域が支え合う必要を実感させることができた。

三 本時の成果と課題

児童が「何を考え、議論すればよいのか」を明確にするために思考ツールは有効な手立てであった。一方で、用いる資料やゲストティーチャーの活用場面を精査することが、より深い思考を促すことにつながると感じた。



研究員の 実践

「ゲストティーチャーを有効活用して 思考の明確化を図る授業の工夫」

旭川市立神居東小学校二年 生活科

「自然との関わりを通して生き物への親しみをもち、

大切に思う気持ちを育てる学習」

授業者 川村 貴弘

一 本時の目標

本時の目標を「モルモットのことを考え、世話の仕方を自分なりに考えることができる。」とした。ゲストティーチャーを有効活用することで、モルモットを飼うためには、「自分のやりたいことを考えるだけではないけない。」ことを確認し、課題意識を明確にした中で本時の目標に迫りたいと考えた。

二 思考の明確化に関わる教師の手立て

①個人思考「思考を促す「学習形態の工夫」

モルモットが喜ぶ世話について考えるために、ゲストティーチャーをT2として活用し、実際にモルモットに触れた経験や今までの学習経験を基に自分の考えを書かせた。

②集団思考「思考を促す「板書の工夫」

個人思考の交流とカテゴリー分けを行った黒板を基に、世話の具体について、さらに思考を深められるようペアで考えさせた。モルモットが食べるものについては、ゲストティーチャーから正しい知識を必要な情報として伝えてもらえるように配慮した。

③思考のまとめ「思考を促す「学習形態の工夫」

児童が予想し、考えたことをゲストティーチャーに講評してもらうことで思考への価値付けを図るとともに、モルモットの世話を行うためにはまだ調べる必要があることを気付かせた。

三 本時の成果と課題

児童が、モルモットのことを考え、世話の仕方を自分なりに考える上で、ゲストティーチャーの活用は有効な手立てとなった。また、発達の段階を考慮し、学習と体験のバランスを一層工夫することで、児童の思考をさらに深めることができると感じた。



協力校 の実践

「多様な考え方から 共通性を見いだす発問の工夫」

東神楽町立東聖小学校六年 算数科

「比と既習事項の共通性に着目して

総合的な見方や考え方を育てる学習」

授業者 鏡 雄介

一 本時の目標

本時の目標を「部分同士の方が分かっている時に、全体の数量から部分の数量を求める方法を考えることができるようにする。」とした。まずは画用紙を使って、旗の縦と横の比をイメージするために「問題提示」を工夫し、解き方の見通しをもたせた上で、自分がより良いと考える方法を選択してから、解決に当たらせた。

二 思考の明確化に関わる教師の手立て

①個人思考「思考を促す「学習形態の工夫」

既習事項を手掛かりに、学級全体で解き方を出し合ってから、自分の考えを図や言葉や式を用いて書かせた。そして自分の考え方を最初はペアで交流し、自分の考えを確かなものにした。

②集団思考「思考を促す「発問の工夫」

比の考え方を聞いた児童の説明から取り上げ、その後に違う解き方の児童を意図的に指名することで、考え方の違いを明確にすることができた。

③思考のまとめ「思考を促す「発問の工夫」

「それぞれの解き方で共通しているところはないかな。」の発問から共通点に着目させ、全てに比の考え方が使われていることに気付かせることができた。

三 本時の成果と課題

言語活動を3段階で行うことで表現力が高まり、主体的・協働的な学習となった。さらにペア学習や思考のまとめの段階で、活動の意図を明確にしていくことで目標達成につながると感じた。



協力校 の実践

「ビデオの提示をきっかけに、 思考や判断を促す発問・板書の工夫」

旭川市立末広小学校三年 国語科

「司会や提案などの役割を果たしながら

進行に沿って話し合う学習」

授業者 西坂 有紀

一 本時の目標

本時の目標を「意見や理由を述べる際に用いる言葉、司会や提案などの役割を理解し、進行に沿って話し合うことのよさに気付くことができる。」とした。学級全体で話し合って考えをまとめたり、意見を述べ合ったりするために、互いの考えの共通点や相違点を考えたり、司会や提案などの役割や進行に沿って話し合うことのよさに気付かせたりすること、本時の目標に迫りたいと考えた。

二 思考の明確化に関わる教師の手立て

①個人思考【思考や判断を促す「発問の工夫」】

話し合いの悪い例のビデオを複数回視聴させ、問題点に気付かせるための発問を工夫した。また、プリントに問題点を記述させ、自分の考えを明確にさせた。

②集団思考【思考や判断を促す「発問及び板書の工夫」】

見付けた問題点をカテゴリー化した上で、改善点を考えさせた。また、「なぜ、そのような改善策を考えたのか。」と根拠を問う発問を工夫した。さらに、構造的な板書を工夫することで、児童が考えを比較し、整理することができた。

③思考のまとめ【思考や判断を促す「発問の工夫」】

本時では、自分たちが話し合い、考えた改善策と関係付けながらビデオを見たり、教科書の記述内容で確認したりした。

三 本時の成果と課題

単元を貫く言語活動を支える部分的な言語活動を設定するとともに、その時間に「何を思考・判断させるのか、そのための教師の手立ては何が適切か。」を事前に検討することで、より学習活動の流れを明確にし、本時の目標に迫ることができた。

協力校 の実践

「既習事項から、関係を 見いだすための発問・板書の工夫」

旭川市立神居東中学校三年 数学科

「円周角と中心角の関係を見いだして理解し

それを用いて考察する学習」

授業者 志満 香奈枝

一 本時の目標

本時の目標を「円周角と中心角の関係を、既習事項を使い考えることができる。」とした。証明に対する苦手意識を少しでも減らすために、「問題提示」を工夫したり、証明する際にも、記述にこだわることなく、図の中で証明を中心に行わせることで、本時の目標に迫りたいと考えた。

二 思考の明確化に関わる教師の手立て

①個人思考【思考を促す「発問の工夫」】

「2つの角ではどちらが大きいか」という、全員が予想できる発問をした。既習事項や補助線についてのヒントを、教師から、随時与えることで、考えるべき方向性を明確にすることができた。

②集団思考【思考を促す「板書の工夫」】

既習事項については、画用紙にまとめたものを黒板に掲示し、問題解決に利用しやすくした。問題の図が描かれた画用紙を、個人思考の段階で補助線を引かせ、黒板に貼って説明させた。

③思考のまとめ【思考を促す「発問の工夫」】

本時では、まとめに向かう問題の難易度が高かったため、教師主導で、ヒントを与えながら、生徒の気付きを促した。

三 本時の成果と課題

思考を促す発問を工夫することで、生徒の主体的な思考を促し、思考を明確化することができた。集団での交流の仕方を、さらに工夫することで、集団思考がより深まると考えられる。



平成 28 年度 上川教育研修センター研修講座開催一覧（予定）

番号	講座名	期日	研修内容の概要（上段：講座名 下段：平成28年度の重点テーマ）	授業
1	いじめ・不登校	5/10	一人一人を大切に、【いじめ・不登校】を未然に防ぐ指導 『いじめ・不登校』の予防と対策の在り方	
2	特別支援教育	5/11 ① 6/10 ②	個別の教育ニーズに応える多様な指導の充実を図る特別支援教育 「障がいの特性に応じた指導の充実と校内支援の在り方」(②で授業研究)	小・中
3	学級経営	5/12 ① 10/11 ②	児童生徒一人一人が自己実現を実感できる学級経営 「児童生徒相互の望ましい人間関係を育てる学級経営」(②で授業研究)	小・中
4	学校経営Ⅰ	6/8	変化の激しい時代に対応した学校経営(学校経営Ⅰ) ※採用2年目以降の校長が対象 「新時代を切り拓く創意ある学校経営の在り方」	
5	学校経営Ⅱ	6/9	確かなリーダーシップを発揮する学校経営(学校経営Ⅱ) ※昇任2年目以降の教頭が対象 「スクールリーダーとしての教頭の在り方」	
6	読書活動	6/10	児童生徒の主体的、意欲的な「読書活動」の推進 「読書活動の充実を図る指導の工夫・改善」(授業研究あり)	小
7	書写実技	6/21	日常に生きて働く書写力を育てる書写実技 「児童生徒の主体的な学習を喚起する指導と評価」(授業研究あり)	中
8	小学校外国語活動	7/1	積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育む小学校外国語活動 「小学校外国語活動の指導計画の作成と授業研究」(授業研究あり)	小
9	複式教育	7/4	主体的・創造的に学び、生きる力を育む複式教育 「地域に根ざした体験活動を通して豊かな心を育む指導」(授業研究あり)	小
10	国語科指導	7/26 ① 9/6 ②	言語活動の充実を図る国語科指導 「言語活動の充実を図る国語科指導の工夫・改善（『書くこと』における指導）」(②で授業研究)	小・中
11	幼小連携教育	7/26	小学校への滑らかな接続を目指す幼小連携教育 「連携・交流活動と学びの連続性」	
12	算数・数学科指導	7/27 ① 8/31 ②	考える楽しさと学びの深まりを実感できる算数・数学科指導 「算数・数学科活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付く授業の在り方」(②で授業研究)	小・中
13	外国語科（英語）指導	7/27 ① 9/1 ②	コミュニケーション能力の基礎を養う外国語科（英語）指導 「『聞くこと』『話すこと』の指導と評価」(②で授業研究)	小・中
14	道徳教育	7/28 ① 8/30 ②	道徳実践力を育成する道徳教育 「体験活動を生かした授業について」(②で授業研究)	小・中
15	学校事務実務	8/1～2	教育活動の円滑化を図る学校事務実務 「学校事務における今日的課題～教育予算における現状と今後の課題」	
16	理科指導	8/2 ① 8/30 ②	科学的な思考力・表現力を育てる理科指導 「『生命』領域の科学的な見方や考え方の育成」(②で授業研究)	小・中
17	学校力向上対策	8/3	今日的な教育課題の解決を図る学校力向上対策 「小中の円滑な接続を目指す教育の在り方」	
18	生徒指導	8/3 ① 9/7 ②	児童生徒の自己指導能力の育成を目指す生徒指導 「組織として主体的に対応する生徒指導の推進の在り方」(②で授業研究)	小・中
19	社会科指導	8/4 ① 10/7 ②	社会的な見方や考え方を養う社会科指導 「社会的事象について多面的・多角的に追究、解決を図る指導（体験・見学・調査活動）」(②で授業研究)	小・中
20	生活科・総合的な学習の時間	8/4 ① 10/12 ②	体験と表現が連動する生活科・共同して探究する総合的な学習の時間 「『生活科』及び『総合的な学習の時間』の充実を求めて（福祉・ボランティア）」(②で授業研究)	小・中
21	教育講演会	8/9	講師：天笠 茂氏（千葉大学教育学部 教授） 演題：「学ぶ教師 成長する学校～教育改革を展望しつつ～」	
22	ICT活用	8/24	授業改善に生かすICT活用 「ICTを効果的に活用した学習指導の在り方～各種機器の基礎的な活用方法」(②で授業研究)	中
23	技術・家庭科実技	8/24	生活をよりよく工夫しようとする実践的な態度を育てる技術・家庭科実技 「日常の食事と調理の基礎」(授業研究あり)	小
24	学級活動	8/25	望ましい人間関係とよりよい生活を築く学級活動 「中学校における学級活動の指導の充実」(授業研究あり)	中
25	校内研修	9/7	年度の重点目標の具現化を目指す校内研修 「協働的な校内研修体制の構築」(授業研究あり)	小
26	体育科実技	9/28	運動に親しむ基礎を培い、体力の向上を図る体育科実技 「体づくり運動、ダンス」(授業研究あり)	中
27	図工・美術科実技	10/5	感性を働かせながら、豊かな情操を養う図工・美術科実技 「基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う学習指導（造形遊び）」(授業研究あり)	小
28	学校・家庭・地域の連携	10/6	子どもたちの生きる力を育むための学校・家庭・地域の連携 「子どもや保護者との円滑なコミュニケーションの取り方（家庭教育支援）」	
29	国際理解教育	10/11	国際社会で主体的に生きていくための資質や能力を育てる国際理解教育 「国際理解教育の実践の工夫（教科・領域における指導）」(授業研究あり)	中
30	音楽科実技	10/12	感性を豊かに働かせて表現する音楽科実技 「音楽の基礎的な指導法と指揮法」(授業研究あり)	中
31	保健安全指導	10/14	生命尊重と、豊かな心を育む保健安全指導 「学校における安全・防災に関する指導の在り方」(授業研究あり)	中
32	ミニ道研A	10/27	北海道立教育研究所によるコース別研修 ○現在、内容等調整中 詳細は4月配布の開催要項を御覧ください	
33	ミニ道研B	10/28	北海道立教育研究所によるコース別研修 ○現在、内容等調整中 詳細は4月配布の開催要項を御覧ください	
34	書に親しもう	1/10	自分なりの表現で書に親しむ文化講座 「心に残る言葉を題材にした小作品づくり」(午前 半日日程)	
35	絵に親しもう	1/10	自分なりの表現で絵に親しむ文化講座 「モダンテクニックを使って心を伝える作品制作」(午後 半日日程)	
36	センター研究発表会	2/7	「学び合いで確かな学力を育てる学習指導の在り方」に関する第16次3か年計画の2年次の研究を発表～センター研究員の実践、研究協力校の実践～	
パソコン実技	A 1校務のための表計算入門	7/7, 11/4	成績や会計をはじめ、さまざまな校務に応じた表計算ソフトの基本的な操作について（初心者向け）	
	2校務のための表計算入門/個別課題解決	8/1	日常で使用しているデータなどで困っていることを個別に解決する講座（初心者向け）	
	B 1校務のための表計算活用	8/5, 11/11	成績や会計をはじめさまざまな校務に応じた表計算ソフトの便利な活用について（中級者向け）	
	2校務のための表計算活用/個別課題解決	1/11	日常で使用しているデータなどで困っていることを個別に解決する講座（中級者向け）	
	C 学校Webサイト作成とWeb用画像処理	7/12	ホームページビルダーを使用した学校Webサイトの作成の仕方や画像処理について	
	D 学校で役立つプレゼンテーション	8/29	授業や各種発表会で効果的に活用するプレゼンテーションソフトの活用について	
	E 学校で役立つ動画処理と動画のための画像処理	12/27	LoiLo Scope 2による動画編集とその機能や効果を生かすための画像処理について	
	F 学校で役立つタブレットPC入門	6/13, 8/2, 1/12	タブレットPCの基本的な操作や、授業での活用方法・役立つアプリの紹介について	
	G 学校で役立つタブレットPC活用	8/8, 1/13	タブレットPCを授業や校務で効果的・効率的に活用する方法について	

～正式な日程は、4月にお届けする「研修講座開催要項」で御確認ください。～

●●● 平成 28 年度の講座開設の工夫 ●●●

- (1) 第 15 次推進計画の基本方針に添い、教職生活全般を通じた教職員等の資質能力の総合的な向上を目指す講座運営をする。
- (2) 教育経営研修では、教職生活の各段階で求められる専門性の基盤となる資質能力の充実を目指す講座を開設する。
- (3) 教育指導研修のうち、「幼小連携教育」講座では、小学校との滑らかな接続を図り、学びの連続性を重視する。
- (4) 教育課題研修では、多くの今日的教育課題に対応するため、年度ごとに課題を設定する「学校力向上対策」講座を継続し、2 年次は、「小中の円滑な接続を目指す教育の在り方」をテーマとする。「教育講演会」は、今日的教育課題解決を目指し、夏季休業中に開設する。
- (5) 教科等指導研修では、小中間の連携を図るため、各校種合同で理論研修を行うとともに小中それぞれの授業研修を行う。また、「学校・家庭・地域の連携」講座では、家庭教育支援を重点化する。
- (6) 教科実技研修では、研究授業を重視する。また、「I C T 活用」講座の充実を図る。
- (7) パソコン実技研修では、「タブレット P C 講座」を入門と活用に分けて開設するとともに、個別課題解決など受講者のニーズに応えられる講座を開設し、複数講師による少人数指導で対応する。なお、「Web サイト作成と画像処理」講座のうち、HP ビルダーのみ開設し、CMS は中止とする。
- (8) 北海道立教育研究所と連携し、「ミニ道研」を開催する。
- (9) 期限付教員の指導力向上のため、各講座への積極的参加を勧める。
- (10) 講座開設情報は、開催要項に加え、「センターだより」、Web サイト、電子メールによる講座案内等により広く提供する。
- (11) 講座運営に関する各種資料、関係図書の利便性を図れる資料室の充実に努める。

ギャラリー 閼 (せん) を 御利用ください

展示・展覧スペースとして御活用いただけます。申込みはセンター事務室にて受け付けております。

「書に親しもう」・「絵に親しもう」講座
受講者作品展 1 月 20 日～2 月 29 日



愛宕中学校美術部作品展
1 月 26 日～2 月 29 日



資料を御活用ください

平成 27 年度は研修センター講座を 36 講座実施しました。廊下には、講座の様子を掲示しています。また、センター事務室・1 F 第 2 研修室、3 F 図書室には、書籍のほかに講座で使用された講義・提言資料に加え、学習指導案も保管しています。どうぞお気軽に足を運び、御活用ください。

また、当センター Web サイトでは、資料室に所蔵されている様々な文献のデータベースファイルを掲載しています。どうぞ御覧ください。



**上川教育
研修センター**

〒070-0038 北海道旭川市6条通4丁目
TEL 0166-24-2501
FAX 0166-24-2512 [地図はこちら](#)



上川教育研修センター
試そう上川の力で 創ろう上川の力で 生かそう上川の力を

- 2015.11.24 「センターだより」に教育研修 No.121を追加しました。
- 2015.11.17 「研究室」に研究紀要 第40号(前半71MB, 後半41MB)を更新しました。ファイルサイズが大きくなっております。ダウンロードの際はご注意ください。
- 2015.09.25 「実施講座の様子」に一般講座の7～9月実施分を一部追加しました。
- 2015.08.10 「実施講座の様子」に一般講座の5～6月実施分を追加しました。
- 2015.07.07 「センターだより」に教育研修 No.120を追加しました。

2016年 1月 15日 (金曜日)

タブレットPC活用②

2016年 2月 4日 (木曜日)

センター研究発表会

上川教育研修センター
〒070-0038 北海道旭川市6条通4丁目
TEL 0166-24-2501
FAX 0166-24-2512 [地図はこちら](#)

研修センターのWebサイトを御利用ください

☆受講後アンケートもこちらから回答できます。

- 施設のあらまし：研修センター利用（宿泊や貸室など）について載せられています。
- 研 究 室：研究紀要を見ることができます。
- 開 催 要 項：講座の一覧や講座の要項のダウンロードができます。また、申込書のダウンロードもできます。
- 実施講座の様子：研修講座の様子を見ることができます。
- センターだより：年間3号発行される上川教育研修センターだよりのバックナンバーを読むことができます。
- 資 料 室：研修センターにある様々な文献のデータベースをダウンロードして一覧を見ることができます。
- アンケート：受講後アンケートやパソコン実技講座の受講アンケートなどを回答できます。
- リ ン ク：教育委員会や教育関係センター・行政・研究機関・自治体のリンク集です。

<http://kami-cen.hs.plala.or.jp/>

研修センター施設 利用に当たってのお願い

施設利用予約を取り
消す場合は、速やかに
当センターまで御連絡
ください。

※この用紙は再生紙（古紙70％）を使用しています。

印刷所 責任者 発行日

谷川印刷株式会社 矢口 元 晴 平成二十八年三月一日

旭川市六条通四丁目
電話〇一六六二四二五〇一
〒〇七〇〇〇三六
上川教育研修センター

研修センターの貸室を御利用ください

貸室使用料（一般）（教職員等「承認団体」が研修等で利用する場合は、下記金額の半額）

室 名	午前（9～12時）	午後（13～17時）	夜間（18～21時）
講 堂	2,700円	3,020円	4,320円
講堂 A・B	1,350円	1,510円	2,160円
研修室／会議室	1,080円	1,290円	1,830円
和 室	540円	640円	860円

☆夏季は冷房料，冬季は暖房料が加算されます。

（研修センター事務室にお問い合わせください。）

室 名	午前（9～12時）	午後（13～17時）	夜間（18～21時）
講 堂	1,080円	1,290円	1,620円
講堂 A・B	540円	650円	810円
研修室／会議室	540円	640円	860円
和 室	320円	320円	320円